

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
銀行預金・定額預金	20,000,000	0	0	20,000,000
小 計	20,000,000	0	0	20,000,000
特定資産				
国際会議準備金	11,000,000	0	0	11,000,000
小 計	11,000,000	0	0	11,000,000
合 計	31,000,000	0	0	31,000,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
銀行預金・定額預金	20,000,000	(0)	(20,000,000)	(0)
小 計	20,000,000	(0)	(20,000,000)	(0)
特定資産				
国際会議準備金	11,000,000	(0)	(11,000,000)	(0)
小 計	11,000,000	(0)	(11,000,000)	(0)
合 計	31,000,000	(0)	(31,000,000)	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
該当事項はございません。

5. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高
債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおり
である。

(単位：円)

科 目	債権金額	貸倒引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
未収金	0	0	0
合 計	0	0	0

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額の残高
該当事項はございません。

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、前払金、前払費用、未払金、前受金、前受会費、預り金及び未払法人税等を含めている。

なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳 (単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	26,232,741	22,723,072
振替預金(会費)	12,400,281	8,348,395
振替預金	33,447,872	3,507,770
普通預金	10,384,588	10,866,907
未収金	35,000	0
前払金	378,174	18,000
前払費用	0	22,017
合 計	26,645,915	22,763,089
未払金	466,699	275,941
前受金	202,000	36,000
前受会費	3,673,800	3,217,700
預り金	1,704	0
未払法人税等	70,000	70,000
合 計	4,414,203	3,599,641
次期繰越収支差額	22,231,712	19,163,448

3. 予算額と決算額との差異が著しい科目及びその理由

- (1) 学術集会事業収入のうちビジュアライゼーションワークショップについては、新型コロナウイルス感染防止のため、開催を中止したため決算額が「0」となり差異が生じた。
- (2) 学術集会事業収入のうち講習会収入において、決算が予算より減少した。これは、年度当初講習会は5回開催予定でしたが、実際には4回の実施にとどまったことや予想より参加者が減少したことの理由による。
- (3) 学術集会等事業費支出のうちビジュアライゼーションワークショップ支出については、新型コロナウイルス感染防止のため、開催を中止したため支出額が「0」となり差異が生じた。

- (4) 学術集会等事業費支出のうちシンポジウム支出において、決算は予算より増加した。これは、当初の予想より支出が増加したことの理由による。
- (5) 学術集会等事業費支出のうち講習会支出において、決算が予算より減少した。これは、年度当初講習会は5回開催予定でしたが、実際には4回の実施にとどまったことや予想より参加者が減少したことの理由による。

以上